

序

紀要第4号が出版されると聞いて感謝している。今まではおもに保育科関係のものであったが、今度は学内が四科になっているので、出来れば合同のものの方がよいと思っていた。しかしそれぞれの伝統と独自の計画があるので思うようにゆかないようである。将来に希望をつないで、今度はとりあえず今までよりは少し変った内容で取り急ぎ出すことになった。

第1号に名前がのっている矢頭教授が昨年大手術の後回復を危ぶまれたが、それこそ奇蹟的に快癒され、先般津市でお会いすることが出来て嬉しかった。第2号の熊野教授は已に故人となられた、淋しいことである。移り変わる世の中にあっても変わらず相会し、その研究生活に接する思いを抱かせるものは、こうしたその方々の業績ではなかろうか。真摯な研究内容は真剣なその人の温容に接する思いを持たせてくれるものである。研究業績はその人自身であるからである。

この度の小冊子がこの意味においても価値のあるものであることを思って感謝している。

1972. 12. 15

北陸学院短期大学学長

番 匠 鉄 雄